

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和8年8月21日時点

	開催日時	開催形式（場所）	名称
1	8月26日(水) 10:00～17:30	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	公開シンポジウム「分野横断を活性化する『防災減災連携研究ハブ(JHoP)』が目指す持続可能でレジリエントな社会」 ※当初6月3日開催予定だったが、台風6号の接近で延期となったもの
2	8月28日(金) 14:00～17:00	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	学術フォーラム「“こどもまんなか社会”ってなんだろう」
3	8月28日(金) 13:00～15:30	京都府立京都学・歴史彩館	共同主催国際会議 市民公開講座「『人・自然・生命』シンポジウム 次世代に贈る社会 ―パラダイムシフト―」
4	8月29日(土) 13:00～16:40	ハイブリッド （リンクステーションホール青森）	東北地区会議学術講演会「未来の仕事と地方のキャリア ～AI時代に地方で生きる、働く、創る～」
5	9月1日(火) 13:00～17:00	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	公開シンポジウム「カーボンニュートラルに向けた水素の多面的な利活用～第2回水素を使う～」
6	9月4日(金) 9:00～10:40	東洋大学白山キャンパス	公開シンポジウム「国立心理科学研究所構想の推進ーその2」
7	9月4日(金) 15:50～17:30	オンライン開催	公開シンポジウム「法律学からみた心理学・心理学からみた法律学」
8	9月5日(土) 17:00～18:30	愛知学院大学名城公園キャンパス	公開シンポジウム「歯科基礎医学研究から社会実装へ」
9	9月5日(土) 9:50～17:30 9月6日(日) 9:15～13:40	オンライン開催	公開シンポジウム「フューチャー・デザイン2026」(5～6日)
10	9月6日(日) 11:10～12:50	東洋大学白山キャンパス	公開シンポジウム「高校心理学教育と心理学（者）との効果的なつながりを育むために～教室での心理学シリーズ2～」
11	9月7日(月) 13:30～17:00	オンライン開催	公開シンポジウム「地球環境変動の時代における陸域・土地利用研究の役割と展望」
12	9月7日(月) 13:00～17:00	ハイブリッド （日本学術会議講堂）	公開シンポジウム「プラネタリーヘルス：激変する地球環境におけるウェルビーイングの向上をめざして」

13	9月8日(火) 13:00～17:30	ハイブリッド (東京大学農学部弥生講堂)	公開シンポジウム「わが国の食料安全保障」
14	9月12日(土) 10:30～12:00	テレコムセンタービル	市民公開講座「未来の学術振興構想：共に創ろう30年後の日本！」
15	9月12日(土) 14:00～17:00	九州大学伊都キャンパス	公開シンポジウム「学術会議地理教育・ESD 分科会見解「ESD充実のための小学校・中学校・高等学校までの地理教育一貫カリキュラムに向けて」」
16	9月13日(日) 13:00～17:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「スポーツとは何かースポーツで“つなぐ/つながる/ひろがる”社会」
17	9月13日(日) 13:30～16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「自治体の人手不足ーその現状と対応方策ー」
18	9月14日(月) 13:30～17:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「司法制度改革後の法学者研究者養成の課題ー法科大学院を経た研究者との対話を踏まえて」
19	9月15日(火) 15:00～17:45	玉川大学Marble (講堂)	公開シンポジウム「先端バイオ技術と環境制御技術の融合が拓く次世代フードイノベーション」
20	9月15日(火) 15:00～17:00	オンライン開催	公開シンポジウム「公共的価値を支える知としての「デザイン」の実践のために(仮)」
21	9月17日(木) 13:30～17:00	日本学術会議講堂	公開シンポジウム「公正なデジタル市場の形成に向けてー市場の構造、弱い立場の利用者保護、個人データ保護等に焦点を当てて」
22	9月17日(木) 14:30～17:30	ハイブリッド (宮崎大学農学部)	公開シンポジウム「日本の食文化を世界へ、そして未来へー飼料生産から食卓まで、和牛ブランドを支える技術革新ー」
23	9月18日(金) 13:30～17:40	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	学術フォーラム「サーキュラーエコノミーの実践のための社会課題と学術課題」
24	9月18日(金) 13:30～16:00	ハイブリッド (愛媛大学南加記念ホール)	公開シンポジウム「人口減少社会における地方都市の未来価値ー「縮充」という新しい地域モデルー」
25	9月19日(土) 13:00～16:30	オンライン開催	公開シンポジウム「AI 時代、未来は誰にとって公平か？ー高校生と考えるジェンダー・マイノリティ・進路ー」

26	9月19日(土) 13:30～16:30	ハイブリッド (関西大学梅田キャンパス)	公開シンポジウム「ビジネス人材のリカレント教育の現状と課題」
27	9月24日(木) 10:00～17:10	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「更なる劇的進化を続ける生成AIの現状を理解しよう！」
28	9月26日(土) 10:00～16:00	日本学術会議講堂	公開シンポジウム「第34回脳の世紀シンポジウム『脳と生成AI』」
29	9月26日(土) 13:00～16:30	東京大学農学部中島董一郎記念ホール	公開シンポジウム「観光・科学・野生動物保全をつなぐーThe Tourist Scientist Project の挑戦ー」
30	9月26日(土) 13:00～17:30	ハイブリッド (日本学術会議会議室)	公開シンポジウム「農学が創る未来：緑の革命3.0」
31	9月27日(日) 13:00～17:00	ハイブリッド (京都大学国際科学イノベーション棟)	近畿地区会議学術講演会「サイエンスとアートが拓く新たな知ー教育・共創・デジタル技術の最前線ー」
32	9月27日(日) 13:00～15:30	明治大学駿河台キャンパス	公開シンポジウム「サービス化社会における共創価値尺度」
33	9月27日(日) 13:00～16:00	オンライン開催	公開シンポジウム「フューチャー・アースの推進と連携：Future Earth Japan Report 2026 へ向けた学術的課題の個別・横断的な整理」
34	9月27日(日) 13:00～18:05	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「生命科学データのオープンな流通・活用の再構築ーAI時代のデータ共有とガバナンスを考えるー」
35	9月27日(日) 13:15～15:15	サンシャインシティ会議室	公開シンポジウム「公認心理師の国家的活用の在り方～職域の拡大と技量向上の責務」
36	9月28日(月) 13:00～17:30	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「現代社会における多様なリスクに対処する法とガバナンスのあり方」
37	9月30日(水) 13:00～17:00	オンライン開催	公開シンポジウム「環境問題の解決と持続的水産業の両立を目指すブルーエコノミーー気候変動対策を組み込んだ新たな水産業への科学的貢献を探るー」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。



分野横断を活性化する『防災減災連携研究ハブ(JHoP)』が目指す 持続可能でレジリエントな社会

防災減災連携研究ハブ(JHoP)は、防災・減災に関わる大学、研究機関、実務機関の20組織が連携し、災害リスクの軽減、持続可能な開発、気候変動適応という相互に関連する社会課題の統合的な解決を目指して活動するネットワークです。シンポジウムでは、JHoP 参画機関の登壇者が多様な実践を紹介するとともに、日本学術会議より2026年4月10日に発出された提言「壊滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーション」とJHoPの4つの活動を掛け合わせて議論し、学術と社会をつなぐ防災減災の連携強化を目指します。

JHoPを核とする、産官学民連携による研究推進・人材育成のネットワーク



プログラム

10:00 オープニングセッション

開催趣旨、JHoPの紹介：寶 馨（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長）

提言：壊滅的災害が想定されるメガシティの防災力強化に向けた科学技術イノベーションの概要

田村 圭子（日本学術会議第三部会員、新潟大学危機管理本部危機管理センター特任教授）

10:40 第一セッション：災害にレジリエントな都市に向けた減災政策（第3章）×scienceに基づく政策形成

進行：大原 美保（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター教授）

13:00 第二セッション：防災情報の発信と流通（第6章）×情報基盤の標準化

進行：栗林 大輔（IRDR 活動推進小委員会委員、国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター 上席研究員）

14:30 第三セッション：都市防災の担い手（第7章）×人材育成と教育体制強化

進行：田村 圭子（日本学術会議第三部会員、新潟大学危機管理本部危機管理センター特任教授）

16:00 第四セッション：メガシティの防災のための科学技術イノベーション（第8章）×産学官民連携

進行：白田 裕一郎（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学技術研究所 総合防災情報センター長）

17:20 おわりに：多々納 裕一（日本学術会議第三部会員、京都大学防災研究所社会防災研究部門 教授）

※各セッションではJHoP参加組織の登壇者が活動を紹介し、提言の実現に向けた取組みについてパネルディスカッションを行います。

日時：令和8年8月26日（水）10:00～17:30

参加費無料

場所：日本学術会議講堂（ハイブリッド開催）オンライン配信あり
東京都港区六本木7-22-34

事前参加登録をお願いします。申込締切 8月19日（水）正午

申し込みサイト https://www17.webcas.net/form/pub/bosai/jhop_0826

お問い合わせ：防災科学技術研究所 JHoP事務局 info-jhop@bosai.go.jp



“こどもまんなか社会” ってなんだろう

2023年4月、こども家庭庁が発足、同年4月にこども基本法が施行され、『こどもも大人も皆が幸せな生活を送ることのできる「こどもまんなか社会」の実現』を掲げて、子どもの総合的政策と体制の予算策定に向けて動き出している。しかしながら、OECD諸国と比較しても子どもの幸福度が著しく低いと評される日本の子どもが、健やかに過ごす上での社会的環境は良くなるどころか悪化するばかりである。その改善に向けては、経済的な支援に留まらず、精神面での人的支援がより重要であり、また子どもに直接関わる地域社会の意識の変革、その生活空間の改変も必要となってくる。

子どもの成育環境改善に向けては、分野横断的に、多角的に捉えていくことが必要である。「子どもの成育環境分科会」は、分野横断的に18年の長期にわたり、子どもの成育環境について検討を続け、空間・時間・方法・コミュニティと4つの課題について繰り返し提言・報告をおこなってきた。

特に、ここ数十年で子どもの捉え方や支援の仕方の変容は目まぐるしい。こども家庭庁がスタートし「こどもまんなか社会」のスローガンは他分野でも少しずつ浸透しつつあるが、未だ子ども関係の業界のみにとどまっている印象もある。「少子化なのになぜ、社会全体で子どもにそこまでやらなければいけないのか」「子どもだけをまんなかにしても解決しないのでは?」「子どもの最善の利益ってなに?」というモヤモヤを抱きながら“子どもをまんなか”にする意味、手法を模索している。

そこで本フォーラムでは、第1部で現代社会において変容する子どもと子どもを取り巻く環境について、各学問分野の最新の研究事例を用い多分野領域から子どもの健全な成育環境について捉える。第2部では、こども家庭庁の現在の取組みを踏まえ、本来の「こどもまんなか社会」の真髓に迫る。

開催日 令和8年 **8月28日** (金)
14:00~17:00

申込締切

8月25日(火)

事前参加登録をお願いします。

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0379.html>



会場

日本学術会議講堂

東京都港区六本木7-22-34

参加費無料

ハイブリッド開催

主催 日本学術会議

共催 公益社団法人こども環境学会

後援 公益社団法人日本小児科学会、一般社団法人日本家族看護学会、一般社団法人日本小児看護学会、日本子ども健康科学会、一般社団法人日本子ども虐待防止学会、幼児教育史学会、

日本教育政策学会、一般社団法人日本建築学会

企画 日本学術会議土木工学・建築学委員会・心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同「子どもの成育環境分科会」

問合せ 日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当 TEL 03-3403-6295



“こどもまんなか社会” ってなんだろう

▶コーディネーター・司会

湯川 嘉津美	(日本学術会議連携会員／上智大学名誉教授)
安部 芳絵	(日本学術会議連携会員 (特任)／工学院大学教育推進機構教職課程科教授)

▶スケジュール

14:00 ~ 14:05	開会挨拶
	高橋 尚人 (日本学術会議第二部会員／国際医療福祉大学医学部教授)
14:05 ~ 14:25	趣旨説明
	三輪 律江 (日本学術会議連携会員／横浜市立大学大学院都市社会文化研究科教授)
第一部	
14:25 ~ 14:40	報告「AI 共生時代に必要となるヒトの脳とこころの発達支援」
	明和 政子 (日本学術会議第一部会員／京都大学大学院教育学研究科教授)
14:45 ~ 15:00	報告「Special health care needs のある子どもときょうだい児を含む家族全体のウェルビーイング」
	浅野 みどり (日本学術会議連携会員／修文大学看護学部小児看護学教授／名古屋大学名誉教授)
15:05 ~ 15:20	報告「不登校、社会的養護等の子どもたちの居場所」
	石崎 優子 (日本学術会議連携会員／関西医科大学小児科学講座診療教授)
15:25 ~ 15:40	報告「子どもたちの過ごす学校、学習環境と地域社会」
	斎尾 直子 (日本学術会議連携会員／東京科学大学環境・社会理工学院建築学系教授)
15:40 ~ 15:50	休 憩
第二部 ディスカッション「“こどもまんなか社会” ってなんだろう」	
15:50 ~ 16:05	「こども家庭庁の取組み」
	藤原 朋子 (こども家庭庁長官)
16:05 ~ 16:50	ディスカッション
	司 会 湯川 嘉津美、安部 芳絵
	パネリスト 藤原 朋子、明和 政子、浅野 みどり、 石崎 優子、斎尾 直子、三輪 律江
16:50 ~ 17:00	まとめと閉会挨拶
	仙田 満 (東京工業大学名誉教授)
17:00	閉 会

市民公開講座

グリーン成長戦略を紐解き、
未来社会の在り方を提案する。

第3回

『人・自然・生命』シンポジウム

次世代に贈る社会 — パラダイムシフト —

2026 8.28(木) 13:00~15:30

会場：京都府立京都学・歴史館 大ホール

参加費無料／事前登録制（定員450名）

同時通訳あり



基調講演
ルシア・ローマン
ミズーリ植物園 園長



シンポジウム
コーディネーター
涌井 史郎
GREEN×EXPO
ラボ チェアパーソン



シンポジウムパネリスト
窪田 聡
日本大学
生物資源科学部 教授



シンポジウムパネリスト
竹内 智子
千葉大学大学院
園芸学研究院 准教授



シンポジウムパネリスト
松本 恵
東急不動産株式会社
サステナビリティ推進部
事業企画グループ 部長



シンポジウムパネリスト
村雨 辰剛
タレント・庭師

主 催

「人・自然・生命」シンポジウム実行委員会
〔(公社) 2027年国際園芸博覧会協会、(公財) 国際花と緑の博覧会記念協会ほか〕
第32回国際園芸学会議 (IHC2026)
〔一般社団法人園芸学会、日本学術会議〕

共 催

京都府立植物園

協 力

華道家元 池坊

問合せ先

第32回国際園芸学会議 (IHC2026)
ihc2026@convention.co.jp

申込方法

定員(450名)に達し次第受付を締め切ります。

右のQRコードもしくはこちら

<https://forms.gle/DPMsx4YJ8n5hoRM9A>

の申込フォームに必要事項入力の上、お申込みください。

申込フォームに入力いただいた個人情報は主催団体に適切に管理し、本シンポジウムの運営に関する業務で使用いたします。
また、主催団体が実施する講演会等の案内に使用することがございます。



未来の仕事と地方のキャリア

～AI時代に地方で生きる、働く、創る～

生成AIをはじめとする情報技術の急速な進展は、あらゆる産業・職業のあり方を変えつつある。地方においては少子高齢化・人口流出が深刻であり、特に東北・青森地域では若い理系人材の都市部流出が長年の課題となっている。一方でAIの普及・デジタル化の進展は同時に、地方でのスタートアップ創出、リモートワーク、研究・技術人材の活躍フィールドを大きく広げる可能性をもたらしている。

また、核融合・介護・看護・医療など、地方の社会課題と直結した分野でのキャリア形成や、東北復興から生まれる新産業の担い手育成も注目される。さらに、女性が理系・技術系キャリアを選択しやすい環境整備は、地域の持続的発展において不可欠な要素となっている。

本講演会では、高校生・保護者・大学生・教員を主な対象として、研究者・起業家・産業界の第一線で活躍する講師を迎え、AI時代における地方でのキャリアの可能性と魅力を多角的に紹介する。

日時

2026年8月29日(土)
13:00～16:40

場所

リンクステーションホール青森
5F大会議室 (青森県青森市堤町1-4-1)

ハイブリッド開催

※後日オンデマンド配信予定

参加無料

□ 事前登録制 □
どなたでもご参加できます

日本学術会議って知ってる？

日本全国の科学者を代表し、国の政策や社会課題に対して科学的な助言を行う「科学者の国会」だよ。高校生の教科書や未来の社会づくりに、専門知識を通じて深く貢献しているよ。

<https://www.scj.go.jp/>



●駐車場スペースには限りがあります。

▶ 参加申し込みはこちら

下記URLまたはQRコードより
事前申し込みをお願いします。 締切: 8.23(日)

<https://forms.gle/cngfYtaJxpiwZ9829>



次第

●司会進行: 佐古 和恵 (日本学術会議第三部会員、早稲田大学理工学術院教授)

13:00～13:10 開会挨拶

日比谷 潤子 (日本学術会議副会長、国際基督教大学名誉教授)
澁谷 泰秀 (青森大学学長)

13:10～13:15 開催趣旨の説明

下條 真司 (日本学術会議第三部会員、青森大学ソフトウェア情報学部教授)

13:15～14:35 講演

I 基調講演

「大学発スタートアップで描く未来 一地域資源を生かしたもののづくりと社会実装」
北川 尚美 (日本学術会議第三部会員、東北大学大学院工学研究科副研究科長・教授)

II 地方での教育

「地方の未来を変える女子×テクノロジー
～AI教育の現場と提言から見てきたこと～」
森田 久美子 (特定非営利活動法人 Waffle)

III 企業・大学・多様なキャリア

「企業と大学におけるアクセシビリティ研究者としてのキャリア」
浅川 智恵子 (日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学大学院理工学研究科特任教授、日本科学未来館館長、IBM Fellow Emerita)

IV 核融合事例 (遠隔講演)

「フュージョンエネルギーによる新たなまちづくりと青森県が果たす役割」
武田 秀太郎 (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科准教授)

15:00～16:35 パネルディスカッション

「地方におけるキャリアとダイバーシティ～AI時代を生き抜くために～」

●コーディネーター: 石井 重成 (青森大学社会学部社会学科准教授)

パネリスト:

- ・講演者: 北川 尚美 / 森田 久美子 / 浅川 智恵子 / 武田 秀太郎
- ・木村 直子 (日本学術会議第二部会員、山形大学大学院農学研究科教授)
- ・大場 みち子 (日本学術会議第三部会員、京都橘大学デジタルメディア学部デジタルメディア学科教授)
- ・学生有志

16:35～16:40 閉会挨拶

五十嵐 和彦 (日本学術会議第二部会員・日本学術会議東北地区会議代表幹事、東北大学大学院医学系研究科教授)

主催: 日本学術会議東北地区会議

共催: 学校法人青森山田学園青森大学、国立大学法人東北大学

【お問合せ先】 日本学術会議東北地区会議事務局(東北大学研究推進課内)
TEL.022-217-4840

日本学術会議 公開シンポジウム

カーボンニュートラルに向けた水素の多面的な利活用

～第2回 水素を使う～

日 時

令和8年9月1日(火) 13:00～17:00

場 所

日本学術会議講堂 (ハイブリッド開催)

定 員

会場180名／オンライン500名 (先着順)

参加費

無 料 (要事前登録)

社会の喫緊の課題であるカーボンニュートラルにむけ産業界とさまざまな学術分野の連携を図り、水素利用に関する課題を明確化する。水素の利活用というテーマは非常に広い分野が関係するため、水素を「作る」「運ぶ」「使う」等のキーワードで、複数回のシンポジウムを行うことを想定している。第1回の「作る」に続き、第2回は「使う」にフォーカスして、産業界で求められている需要を共有し、水素を使う技術とその関連研究の講演と、今後の水素連携につながる議論を行う。



13:00 開催挨拶

尾崎 由紀子 氏 (日本学術会議第三部会員/大阪大学接合科学研究所招へい教授)

13:10 来賓挨拶

文部科学省 研究開発局環境エネルギー課長(予定)

経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 水素・アンモニア課長(予定)

13:30 講 演

(産 業 界)

【モビリティに期待される水素を使う技術とその課題】

飯山 明裕 氏 (一般社団法人FC-Cubic理事長/山梨大学 水素・燃料電池ナノ材料研究センター長)

【水素ガスタービンと水素エンジンの開発状況】

吉村 健二 氏 (川崎重工株式会社 水素戦略本部シシクタンク部 特別主席)

【グリーンイノベーション基金事業におけるCO2低減を目的とした水素活用製鉄プロセスの開発状況】

宇治澤 優 氏 (日本製鉄株式会社 技術開発本部 技術開発企画部 研究戦略室 部長代理)

14:45 休 憩

14:55 講 演

(学 術 界)

【水素研究 × 数理科学・AI・ロボット～異分野融合と企業間協調の推進～】

一杉 太郎 氏 (日本学術会議連携会員/東京大学 大学院理学系研究科 教授)

【固体酸化物セルによる水素製造/利用の課題と展望～社会実装に向けた固体イオニクス研究～】

雨澤 浩史 氏 (東北大学 多元物質科学研究所 教授)

【水素環境材料開発のための水素可視化研究】

板倉 明子 氏 (日本学術会議連携会員/物質・材料研究機構 特別研究員)

【水からの水素生成制御のための光触媒設計】

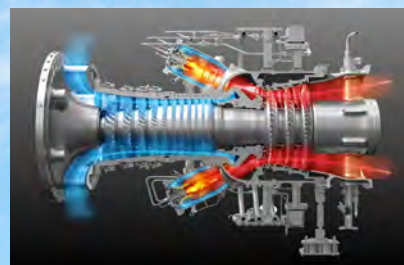
吉田 朋子 氏 (日本学術会議連携会員/名古屋大学 大学院工学研究科 教授)

16:15 パネルディスカッション:水素分野でのアカデミアの貢献とは(仮)

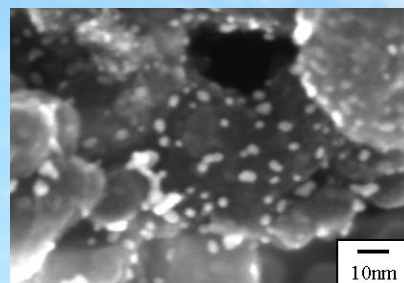
【モデレーター】

佐々木 一成 氏 (日本学術会議連携会員/九州大学 副学長・サステナブル水素研究所 主幹教授)

16:55～17:00 閉会挨拶



出典:川崎重工株式会社



出典:九州大学

主 催: 材料工学委員会、物理学委員会、化学委員会、総合工学委員会、循環経済を活かし自然再興と調和する炭素中立社会への移行に関する検討委員会

共 催: 日本物理学会、日本金属学会、水素エネルギー協会、水素科学技術連携研究会、物質・材料研究機構、東北大学 材料科学高等研究所、九州大学 サステナブル水素研究所

協 賛: 応用物理学会、日本MRS、電気化学会、日本表面真空学会

後 援: 日本化学会、東京理科大学 研究推進機構総合研究院

参加申し込み: 事前に下記URLあるいは右記QRコードより、8月25日(火)までにご登録ください。

<https://forms.gle/m22CrK726Wx8g5Ap8>

お問い合わせ先: 九州大学 藤田・坂本・立川 (info@h2.kyushu-u.ac.jp)

参加登録はこちらから
8月25日(火)締切



国立心理科学研究所構想の推進

—その2—

心理学データの蓄積と活用が、未来のwell-beingを支える。



科学の推進による
一人一人のwell-beingの達成へ

Japan Psych Bank の保管と活用推進

開催趣旨

心理学では、これまで数多くの研究データが蓄積されてきたが、それらを長期的・体系的に保存・活用するための国立機関は存在しません。本シンポジウムでは、「科学の推進による一人一人のwell-beingの達成」を理念とする国立心理科学研究所構想について議論します。

研究データベース（Japan Psych Bank）の整備・活用、AIによる大規模データ解析、研究倫理・個人情報保護、人材育成や社会還元などを通じて、教育・医療・福祉・産業を含む社会への心理学の貢献について考えます。

—— 国立心理科学研究所構想が目指すもの ——



教育



医療



福祉



ビジネス・産業



社会全体へ

研究の蓄積 × データの活用 = 社会への貢献

研究環境の整備、優秀な人材育成、研究者確保、研究成果の社会還元を通じて、日本の心理学の発展と社会への貢献を目指します。

次 第（プログラム）



司 会

川合 伸幸

（日本学術会議連携会員／
名古屋大学情報学研究科 教授）



挨拶と

企画趣旨説明

明和 政子

（日本学術会議第一部会員／
京都大学大学院教育学研究科 教授）

話題提供 1

心理学研究における
大規模データベースの構築
齋木 潤

（京都大学大学院人間・環境学研究科 教授）

話題提供 2

知識グラフによる
Rules as Codeに基づくAIエージェント
橋田 浩一

（札幌市立大学AITセンター 特任教授）

話題提供 3

心理学のデータ収集における
研究倫理と個人情報保護について
松井 健志

（京都大学 人と社会の未来研究院 特定教授）



総合討論

齋木 潤 橋田 浩一 松井 健志

日 時

2026年 9月 4日（金）
9:00 - 10:40

第2会場（1号館 1B11）

場 所

東洋大学 白山キャンパス
（東京都文京区白山5丁目28-20）

参加方法

一般参加可

参加費

無 料

※ プログラムの内容・順序は変更となる場合があります。

主 催

日本学術会議
心理学・教育学委員会
心の総合基礎分科会

公益社団法人 日本心理学会



法律学から見た心理学 心理学から見た法律学

L A W A N D P S Y C H O L O G Y I N D I A L O G U E

参加費
無料

要事前
申し込み

2026
9 / 4 **金**

15:50 - 17:30
(配信開始 15:40)

開催形式

オンラインにより開催します

*Webを通じて配信いたします。開催直前にURLを送付いたしますので、必ずお申し込み下さい。

お申し込み方法

参加申し込みは専用WEBサイトから

URL <https://forms.gle/K6FU3zFy8mGfi9PD9>

申し込み締切：8月28日(金)



開催趣旨

法理論や法実務と心理学の関わりに関する研究は、すでに長い歴史と蓄積を有していますが、その主たる対象は、目撃証言、司法面接、被害者支援、裁判員裁判など、主として刑事実体法や刑事手続法における諸問題に関するものが多くありました。他方で、この10年間ほど、商品取引、金融、消費者保護、高齢者保護などの民事実体法、民事手続法における諸問題についても、法と心理学の研究成果には注目するべきものが見られるようになっていきます。このような発展の中で、今日、そもそも法律学が想定している「人間」、心理学が想定している「人間」とはどのようなものなのかが正面から問題とされています。本シンポジウムは、日本心理学会、法と心理学会と日本学術会議法学委員会・心理学・教育学委員会合同法と心理学分科会との共催により、「法律学から見た心理学・心理学から見た法律学」をテーマとして、法と心理学の諸問題と法律学と心理学の架橋・協働につき今日の到達点を議論し、併せて今後の発展を展望します。

[プログラム]

■司会 笠井 修（日本学術会議連携会員／中央大学大学院法務研究科教授）

■報告

仲真紀子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人理化学研究所理事／立命館大学招聘研究教授／北海道大学名誉教授）「心理学から見た法律学」

西希代子（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学大学院法務研究科教授）「民事法学から見た心理学」

笹倉香奈（日本学術会議連携会員／甲南大学法学部教授）「刑事法学から見た心理学」

■指定討論

川嶋四郎（日本学術会議第一部会員／同志社大学法学部法律学科教授）

藤田政博（関西大学社会学部心理学専攻教授）

豊崎七絵（日本学術会議連携会員／九州大学大学院法学研究院教授）

主催：日本学術会議法学委員会・心理学・教育学委員会合同 法と心理学分科会

共催：日本心理学会、法と心理学会

*お問い合わせ先：上記フォームよりお問い合わせ下さい。

日本学術会議 公開シンポジウム

第68回歯科基礎医学会学術大会

歯科基礎医学研究から社会実装へ

主催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会、病態系歯学分科会、臨床系歯学分科会
共催：一般社団法人歯科基礎医学会 後援：日本生命科学アカデミー

令和8年9月5日（土） 17:00～18:30

会場：愛知学院大学名城公園キャンパス
（愛知県名古屋市中区名城3丁目1-1）

一般参加無料（事前登録不要）学術大会のその他プログラムへの参加は登録が必要です

歯科基礎医学では、口腔の発生、口腔細菌、口腔免疫、口腔組織再生など様々な領域の基礎的な研究が盛んに行われているが、実用化に至るまでの道のりは長く、社会実装されているものはほんの一部であるのが現状である。

本シンポジウムでは、これからの歯学研究の産学連携及び実用化において重要な方策、予算の獲得、規制等について討論し、今後の歯科基礎医学研究から社会実装までの戦略を展望する。

開会挨拶：樋田 京子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究院教授）

オーバービュー：前川 知樹（日本学術会議連携会員／新潟大学大学院医歯保健学研究科研究教授）

講演 座長：前川 知樹（日本学術会議連携会員／新潟大学大学院医歯保健学研究科研究教授）
古江 美保（日本学術会議連携会員／株式会社セルミック 代表取締役）

『歯科基礎医学を社会の力に：社会実装を加速させる「技術×ビジネス思考」』

古江 美保（日本学術会議連携会員／株式会社セルミック 代表取締役）

『歯科臨床の現場から挑むディープテックの創出』

江草 宏（日本学術会議連携会員／東北大学大学院歯学研究科教授）

『基礎研究の価値と社会への波及』

宿南 知佐（日本学術会議連携会員／広島大学大学院医系科学研究科教授）

『歯科研究領域へのAMEDの貢献を目指して』

浅野 武夫（国立研究開発法人日本医療研究開発機構推進役）

パネルディスカッション 座長：前川 知樹（日本学術会議連携会員／新潟大学大学院医歯保健学研究科研究教授）

閉会挨拶：石丸 直澄（日本学術会議連携会員／東京科学大学大学院医歯学総合研究科教授）

第9回



FUTURE DESIGN 2026

9/5 (Sat) 9:50～17:30

9/6 (Sun) 9:15～13:40

参加無料
Zoom開催

フューチャー・デザインは、持続可能な自然と社会を将来世代に引き継ぐために、新たな仕組みをデザインし、現在の社会の仕組みである市場や民主制を何らかの形で制御しようとする新たな分野です。たとえば、将来世代の視点に立ち、将来世代の利益を代表する役割を与えられた人々(仮想将来世代)は、通常の現代世代の人々とは異なる思考をして、将来世代の利益を擁護することが実験や実践で分かってきました。本シンポジウムでは、フューチャー・デザインをめぐる様々な実践や研究について議論いたします。研究者だけでなく、自治体などの実務家も含め、意見交換を行います。奮ってご参加ください。

基調講演

「社会性の視座～FUTURE DESIGN 2040～」

十倉雅和 氏

(住友化学株式会社相談役、日本経済団体連合会名誉会長)



略歴： 1950年生まれ。1974年に東京大学経済学部を卒業後、住友化学工業株式会社（現・住友化学株式会社）に入社し、1994年から住友化学ベルギーS.A./N.V.に出向の後、精密化学業務室部長、技術・経営企画室部長などを歴任。常務執行役員、専務執行役員を経て、2011年に代表取締役社長、2019年に代表取締役会長に就任し、2025年より同社相談役。また、2021年に一般社団法人日本経済団体連合会会長に就任し、2025年からは同名誉会長。

特別報告

【FD×デザイン思考】

佐藤カズー（株式会社地球中心デザイン研究所CEO/CCO） 中川善典（上智大学教授）

【大学教育におけるFD導入】

武田友加（九州大学） 木村岳裕（金沢大学）

【中学・高校教育におけるFD導入】

高橋克志（宮代町立百間中学校） 大塚雅之（大阪府立三国丘高校） 岩橋嘉大（兵庫県立青雲高校）

フューチャー・デザイン2026組織委員会

Chair: 小林慶一郎（キヤノングローバル戦略研究所・慶應義塾大学）

Members: 一原雅子（京都大学）、岡本剛（九州大学）、小林淳（キヤノングローバル戦略研究所）、高橋雅明（矢巾町学校教育課）、中川善典（上智大学）、西村直子（立命館大学・大阪大学社会経済研究所）、廣光俊昭（財務総合政策研究所）、刈谷敏久（一般社団法人フューチャー・デザイン）、西條辰義（京都先端科学大学・総合地球環境学研究所）

主催



キヤノングローバル戦略研究所
The Canon Institute for Global Studies

<https://cigs.canon/>



日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

<https://www.scj.go.jp/index.html>

参加お申し込みは
こちらから



フューチャー・デザイン2026 プログラム

9月5日（土）

- **9:50 開会挨拶**
小林慶一郎(キヤノングローバル戦略研究所研究主幹・慶應義塾大学教授)
- **10:00 基調講演 社会性の視座~FUTURE DESIGN 2040~**
十倉雅和(住友化学株式会社相談役、日本経済団体連合会名誉会長)
- **11:00 特別報告 【FD×デザイン思考】**
佐藤カズー(株式会社地球中心デザイン研究所CEO/CCO)、中川善典(上智大学教授)
- **13:15 一般報告 文化遺産を未来から考える~ぐんま絹遺産を対象としたフューチャー・デザイン~**
山田大樹(帝京大学文化財研究所講師)
- **13:45 一般報告 将来世代への想像力を高めるために~財務省「はじめてのフューチャー・デザイン」における取組~(仮)**
入谷康平(財務省)、市岡敦子(株式会社日本総合研究所)
- **14:15 一般報告 矢巾町におけるFD制度化の取組について**
高橋雅明(矢巾町学校教育課)
- **14:55 一般報告 将来世代への配慮を促す制度変化はいかに進むのか:矢巾町の事例から**
尾上成一(東京大学・慶應義塾大学大学院)
- **15:25 一般報告 フューチャー・デザインによる地域農業の合意形成**
中嶋晋作(明治大学)
- **16:00 一般報告 The Art of Building Long-Lasting Organisations**
Nick Barter(Griffith University (Brisbane, Australia) and Future Normal)
- **16:30 一般報告 分断と反知性主義のアメリカー人類規模の危機との関わりから**
廣光俊昭(財務総合政策研究所)
- **17:00 一般報告 スペースデブリ問題に対する予防的制御をめぐる「法接合」デザイン・アプローチー「未来政策の社会実装」という観点からー**
中山敬太(早稲田大学 社会科学総合学術院)
- **17:30 閉会挨拶**
西村直子(立命館大学・大阪大学社会経済研究所)

9月6日（日）

- **9:15 特別報告 【大学教育におけるFD導入】**
武田友加(九州大学) 木村岳裕(金沢大学)
- **10:15 特別報告 【中学・高校教育におけるFD導入】**
高橋克志(宮代町立百間中学校)、大塚雅之(大阪府立三国丘高校)、岩橋嘉大(兵庫県立青雲高校)
- **11:30 一般報告 フューチャー・デザインによる目標設定法の構築とトライアスロン競技への応用**
山中翔陽(九州大学)、岡本剛(九州大学)
- **12:30 一般報告 ネパールでの未来首相ワークショップの実践について**
倉阪秀史(千葉大学大学院社会科学研究院)
- **13:00 一般報告 フューチャー・デザインを活用した財政教育×模擬選挙の実践と社会実装への展望ー政策選好と投票行動の関係に着目してー**
服部将昌(学生団体財政教育フロンティア)、中田裕己(N高グループ政治部)
- **13:30 閉会挨拶**
岡本剛(九州大学)

参加お申し込みは
こちらから



公開シンポジウム

高校心理学教育と心理学(者)との 効果的なつながりを育むために 教室での心理学シリーズ2

令和8年9月6日(日) 11:10 - 12:50

東洋大学白山キャンパス 第3会場, 1号館 1B12

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

開催趣旨：本シンポジウムは、高校教員と心理学者との連携具体化を目指す公開シンポジウムのシリーズです。高校の倫理・心理学教育の実践や課題について、教員による話題提供の場とするとともに、心理学者が実情を知る機会にもなればと思います。新学習指導要領による「公共」必修化や「倫理」の心理学内容拡充を受け、2025年3月には学んだ最初の世代が卒業しています。日本心理学会は連載や講座、動画配信、連絡協議会設立などを通じて高校心理学教育を支援してきましたが道半ばです。本シンポジウムでは高校現場の「心理学」へのイメージと課題を共有しつつ、「認知」（思考力を含む）の授業実践と工夫を、実践報告と理論的視点の提示、意見交換を通じて取り上げます。皆様のご来場を歓迎します。

対象：どなたでも参加いただけます。

参加費無料・事前申込不要

定員：100人

問い合わせ： 公益社団法人日本心理学会教育研究委員会
高校心理学教育小委員会事務局 psych-hs@psych.or.jp

主催：日本学術会議心理学・教育学委員会心の科学のキャリアパス構築分科会、公益社団法人日本心理学会教育研究委員会高校心理学教育小委員会

公開シンポジウム

高校心理学教育と心理学(者)との効果的なつながりを育むために
教室での心理学シリーズ2

プログラム

司会：大神 優子(和洋女子大学教授)

1. 挨拶・高校倫理と心理学のこれまでの流れ+現時点での認知度
楠見 孝(日本学術会議連携会員／京都大学国際高等教育院副
教育院長・特定教授)

2. 高校での実践例(心理学をどのように扱っているか), 心理学への
疑問や要望 村野 光則(東京大学非常勤講師／元東京大学教
育学部附属中等教育学校副校長)

3. 「心理学」を踏まえた「認知」に関する実践授業の例

河原 純一郎(日本学術会議第一部会員／北海道大学大学院文
学研究科教授)

指定討論

1. 心理学の考え方・知識習得で終わらせないための工夫

池田 まさみ(十文字学園女子大学教授／日本心理学会高校心理
学教育小委員会委員)

2. 高校「倫理」授業作りの観点

池田仁 (東京都立白鷗高等学校)

地球環境変動の時代における陸域・土地利用研究の役割と展望

主催：日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 FE・WCRP 合同分科会

2026 年 9 月 7 日 (月)
13:30 ~ 17:00

オンライン開催 どなたでも
参加費無料 参加できます
事前参加申込制
申込期限 9月5日(日)



13:30 開会挨拶 春山 成子 (三重大学 名誉教授)

13:35 趣旨説明 大黒 俊哉 (日本学術会議 連携会員/東京大学 教授)

セッション1：講演「地域からみる土地システムの変化と社会・自然の構造」

サブセッション 1-1：自然変動と生態系応答

13:40 「フェノロジーと土地利用土地被覆の変化」

奈佐原 顕郎 (筑波大学 准教授)

13:55 「乾燥地の植生とダスト発生：放牧地管理からみる大気と陸域の繋がり」

甲野 耀登 (東京大学 助教)

サブセッション 1-2：社会経済変動と土地利用再編

14:10 「ニジェールにおける都市ごみを使った緑化－都市と農村の有機物循環」

大山 修一 (日本学術会議 連携会員/総合地球環境学研究所 教授/京都大学 教授)

14:25 「アフリカ都市周縁部の土地利用再考－建材生産・供給の場としての周縁部という視点」

中垣 太樹 (京都大学 博士課程)

サブセッション 1-3：土地劣化と回復をめぐる制度と地域社会

14:40 「森と人のつながりの共創」

石原 正恵 (京都大学 准教授)

14:55 「「保護区」は何を保護しているのか？－インドの経験から」

木本 浩一 (関西学院大学 教授)

15:10 「牧養力評価と放牧管理の制度的課題－気候変動や放牧強度の影響を踏まえて」

王 勤学 (国立環境研究所 特命研究員)

セッション2 総合討論「陸域システム・土地利用研究の到達点と次の課題」

15:40 パネリストによる討論

パネリスト：柿沼 薫 (東北大学 准教授)・講演者

司 会：大黒 俊哉 (日本学術会議 連携会員/東京大学 教授)

16:35 総括コメント

三枝 信子 (日本学術会議 副会長/国立環境研究所 理事)

大崎 満 (北海道大学 名誉教授)

16:55 閉会挨拶 氷見山 幸夫 (北海道教育大学 名誉教授)

後援

Global Land Programme(GLP) 日本拠点オフィス
地理学連携機構 総合地球環境学研究所 日本アフリカ学会 日本沙漠学会



公開シンポジウム

[主催] 日本学術会議環境学委員会・健康・生活科学委員会合同環境リスク分科会;
健康・生活科学委員会 パブリックヘルス科学分科会; 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会
[共催] 一般社団法人プラネタリーヘルスアライアンス 日本ハブ; 特定非営利活動法人日本医療政策機構



プラネタリーヘルス: 激変する地球環境におけるウェルビーイングの向上をめざして

2026年 **9月7日** (月) 13:00 – 17:00 12:30受付開始

会場: 日本学術会議講堂 (東京都港区六本木7-22-34)

参加方法: 現地参加, オンライン参加

入場無料: どなたでも参加できます



★ 事前に以下のWEBサイトからお申し込みください

https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_8RB7H1XPRDOLXgkciW-9hw

◇ 総合司会: 近藤 智恵子* (長崎大学大学院工学研究科教授)

◆ 開会挨拶: 三枝 信子** (日本学術会議副会長, 国立環境研究所理事)

◆ 趣旨説明: 中村 桂子* (日本学術会議環境リスク分科会委員長, 東京科学大学名誉教授)

■■■ 第1部: エビデンスと現状認識 ■■■

◆ 座 長: 玉腰 暁子** (日本学術会議パブリックヘルス科学分科会委員長, 北海道大学大学院医学研究院教授)

□ 基調報告: 橋爪 真弘* (東京大学大学院医学系研究科国際保健政策学教授/長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科教授)

□ 政府の取り組み

◇ 厚生労働省

◇ 環境省

◇ 農林水産省

■■■ 第2部: 研究から実装へ ■■■

◆ 座 長: 小口 高** (日本学術会議地球・人間圏分科会委員長, 東京大学空間情報科学研究センター教授)

□ 「Urgency for Change: プラネタリーヘルス研究から実装への展開」

サミュエル・マイヤーズ (プラネタリーヘルスアライアンス創設理事長)

□ 「プラネタリーヘルス研究から産学連携の協創へ」

五十嵐 圭日子 (東京大学プラネタリーヘルス研究機構機構長)

□ 「プラネタリーヘルス国際会議2027に向けて」 橋爪 真弘*

■■■ 第3部: 実装ギャップをどう埋めるか ■■■

◆ 座 長: 中村 桂子*

□ 「生物多様性と健康に関する研究から実装へ」 山野 博哉* (東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教授)

□ 「ワンヘルスの研究から実装へ」 石塚 真由美* (北海道大学理事/副学長)

□ 「医療システムの脱炭素, 資源循環の研究から実装へ」 南齋 規介 (国立環境研究所資源循環領域長)

□ 「社会構造と産業構造から考える実装ギャップ」

藤井 健吉* (花王株式会社研究開発部門研究主幹/研究戦略・企画部部長)

□ 「生命保険会社, 機関投資家のプラネタリーヘルスへの取り組み」

岩本 昌弘 (日本生命保険相互会社 サステナビリティ経営推進部 環境経営推進担当部長)

◇◇◇ 総合討論 ◇◇◇

橋爪 真弘*; 五十嵐 圭日子; 山野 博哉*; 石塚 真由美*; 南齋 規介; 藤井 健吉*; 岩本 昌弘

◆ 閉会挨拶: 磯 博康** (日本学術会議副会長, 国立健康危機管理研究機構国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター長/理事長特別補佐)

** 日本学術会議 会員 * 同 連携会員

【主催】日本学術会議農学委員会農業経済学分科会
【後援】一般社団法人日本農学会、公益財団法人農学会、
日本農学アカデミー、農業経済学関連学会協議会、
農林水産省、一般社団法人全国農業協同組合中央会、
一般財団法人食品産業センター、国立大学法人東京
大学大学院農学生命科学研究科

政府は、2024年に食料・農業・農村基本法の改正を行った。その背景には、わが国の食料の安定供給と確保の面で、輸入および国内生産の情勢、不測時ならびに平常時における食料アクセスそれぞれにおいていくつもの懸念が現れてきたことがある。基本法の改正では、政策の基本理念において、あらためて「食料安全保障政策の確保」がうたわれることとなり、「良質な食料が合理的な価格で供給され、かつ、国民一人一人がこれ入手できる状態」の確保を図ることとされた。基本法改正後に策定された新たな基本計画において、食料安全保障強化のための方策が提起されている。そのような中、突然の中東情勢の変化等によって、食料安全保障をめぐるさらなる課題が発生することとなった。本シンポジウムでは、わが国の食料安全保障をめぐる現状と課題を、行政、実務家の意見も交えながら、短期および中長期の視点から多角的に整理をし、今後を展望する。

参加費無料

日本学術会議公開シンポジウム

「わが国の食料安全保障」

2026年9月8日(火) / 東京大学農学部弥生講堂一条ホール (ハイブリッド開催)

【プログラム】

司会：清原 昭子（日本学術会議連携会員、福山市立大学教授）

13:00 開会挨拶

立川 雅司

（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院環境学研究科教授）

■食料安全保障政策の枠組み（第一部）

13:10 第1報告「わが国の食料安全保障政策の概要」

中嶋 康博（日本学術会議第二部会員、日本栄養大学教授）

■世界情勢と食料安全保障（第二部）

13:30 第2報告「中東情勢の悪化による化学肥料価格上昇が世界小麦需給に及ぼす影響－世界小麦需給モデルによる予測と化学肥料をめぐる国際的な政策の課題－（仮）」

小泉達治（農林水産政策研究所政策研究調整官・東北大学大学院農学研究科教授（連携講座））

13:50 第3報告「途上国における食料安全保障と栄養の課題」

白鳥 佐紀子（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

■環境問題・先端技術と食料安全保障（第三部）

14:10 第4報告「食料安全保障に貢献する農業バイオテクノロジーの可能性（仮）」

吉田 均（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門 主席研究員）

14:30 第5報告「気候緩和と食料安全保障：長期シナリオ分析の視点から」

藤森 真一郎（日本学術会議連携会員、京都大学大学院工学研究科教授）

14:50 第6報告「生物多様性と食料安全保障」

橋本 禪（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

《20分休憩》

15:30 第7報告「食料安全保障における水産業の役割と将来課題」

八木 信行（日本学術会議連携会員、東京大学特命教授室特命教授）

■総合討論（第四部）

モデレーター：

青柳みどり（日本学術会議連携会員、中央大学総合政策学部教授）

15:50 コメントおよび討論

御村 吉伸（農林水産省大臣官房参事官） 大角 亨（食品産業センター専務理事）

紺野 和成（日本農業法人協会専務理事） 平野 路子（日本生活協同組合連合会政策企画室長）

芝田 雄司（セカンダリーベスト・ジャブCEO） 豊川 佑（丸紅株式会社穀物油糧部穀物課長）

および、第一部～第三部報告者

17:25 閉会挨拶：

渡辺 京子（日本学術会議第二部会員、玉川大学農学部教授）



会場参加かオンライン参加かを選んで
事前登録おねがいします。
オンライン参加の場合、参加用URLを
メールでお送りします。

https://www.agc.a.u-tokyo.ac.jp/wp/fg1_260908/

【問い合わせ】

東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコウーン(ACT160)

TEL: 03-5841-8882 / FAX: 03-5841-8883

mail: office@agc.a.u-tokyo.ac.jp

30年後の日本は、どんな科学でできている？

市民公開講座

未来の学術振興構想 共に創ろう 30年後の日本！

—サイエンスアゴラ 2026—

8つの中長期研究戦略を研究者がわかりやすく紹介！
みんなで「30年後の日本に必要な研究」を考えよう！

宇宙・天文学

生命のゲノム

AI・情報科学

医療・創薬

環境・グリーン社会

地震・防災

陽電子・物質科学

宇宙の謎・暗黒物質

日時 令和8(2026)年
9月12日(土)
10:30~12:00

参加
無料

事前登録不要

場所 テレコムセンタービル5階
オープンスペース E
東京都江東区青海2丁目5-10

会場アクセス

<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/2026/#access>



主催 日本学術会議 科学者委員会
学術研究振興分科会

プログラム(90分)

司会：山崎 典子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 教授）

オープニング

10:30~10:38 開会挨拶、「未来の学術振興構想」と本企画の趣旨説明
森田 一樹（日本学術会議第三部会員／日本製鉄株式会社 顧問／
東京大学 名誉教授／大阪大学工学研究科 特任教授）

本編(構想説明+質疑応答)

- 10:38~10:46 200大学集合！目指せグリーン社会変革
岡田 小枝子（人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 准教授）
- 10:46~10:54 “守護天使チーム”による究極の個別化医療と見守り社会の実現
横井 英人（一般社団法人 日本医療情報学会 代表理事）
- 10:54~11:02 染色体ラボ構想：すべての生物種の染色体の可視化を目指して
田辺 秀之（一般財団法人 染色体学会 理事長／
総合研究大学院大学 総合進化科学研究センター 准教授）
- 11:02~11:10 人文知×AIで、ことばと文化の壁を取り払う
小木曾 智信（国立国語研究所 副所長）
- 11:10~11:18 震源近傍観測・破壊再現実験による沈み込み帯プレート地震
メカニズム研究の新展開—「次の次」南海トラフ巨大地震予測に向けて
望月 公廣（東京大学地震研究所 教授）
- 11:18~11:26 陽電子の反応子、陽電子で挑む物質科学・基礎科学研究所とその未来
長崎 泰之（日本陽電子科学会 会長／東京理科大学 理学部 教授）
- 11:26~11:34 アンデス高原で宇宙最高エネルギーの光を追うアルパカ実験
さこ 隆志（東京大学宇宙線研究所 教授）
- 11:34~11:42 地下深くから宇宙の謎に挑む—XLZD実験で探る暗黒物質
山下 雅樹（名古屋大学宇宙地球環境研究所 教授／
東京大学数物連携宇宙研究機構 客員上級科学研究員）

総合討論

11:42~11:56

未回答の質問の整理、クロストーク

モデレーター：宮川 剛

（日本学術会議連携会員／
藤田医科大学研究推進本部 総合医科学研究部門
医科学研究センター システム 教授）

ゲスト：近藤 潤

（文部科学省 研究開発戦略課長）

クロージング

11:56~12:00

まとめ、閉会挨拶

山本 晴子（日本学術会議第二部会員／
国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 理事）

開催趣旨

日本学術会議「未来の学術振興構想」は、今後20~30年先を見据えた学術振興の19のグランドビジョンと、その実現に向け今後10年程度で取り組むべき「学術の中長期研究戦略」から構成される、我が国の学術の将来像を示す重要な提言です。

本企画では、これらの研究戦略を8名の研究者が、中高生を含む一般市民に向け各構想の魅力と社会的意義を発信します。行政・政治の関係者をゲストに迎え、フロアからの質疑応答も交えながら「30年後の日本に必要な研究とは何か」を共に考え、研究の知的興奮と未来構想に触れる90分にいたします。

こんな方におすすめ！

- ✓ 科学や研究に興味がある中高生・小学生とその保護者
- ✓ 将来、研究者・技術者を目指している人
- ✓ いろいろな分野の研究を一度に知りたい人
- ✓ 未来の社会や日本の姿を考えてみたい人

どなたでも
お気軽に
ご参加ください！

ご来場者はどなたでも参加できます。ぜひ、友だちやご家族と一緒にお願いします！

【公開シンポジウム】 学術会議地理教育・ESD分科会見解 「ESD充実のための小学校・中学校・高等学校までの 地理教育一貫カリキュラムに向けて」の実装へ

主催 日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育・ESD分科会、
公益社団法人日本地理学会

後援 地理学連携機構

【趣旨】地理教育・ESD分科会は、2026年5月21日に見解「ESD充実のための小学校・中学校・高等学校までの地理教育一貫カリキュラムに向けて」を発出した。本見解は、ESD(Education for Sustainable Development)、つまりは持続可能な社会の創り手を育む教育が小学校から高等学校まで各教科等で段階的に効果的に行われているとはいえないという問題意識から発出された。本シンポジウムでは、持続可能な社会づくりの能力の育成をめざすための本見解がどのように実装され、どのような効果をもたらすのかを検証し、見解の実装を図るものである。具体的には、①趣旨と「見解」の概要 ②小学校における世界の学習 ③小学校での実践 ④ユネスコとESDの観点 ⑤海外研究とのかかわりから ⑥メディアからの視点 から討論を深めていく。多角的に本見解の実装を検討し、教育関係者をはじめ多くの方に見解を理解してもらい、ESD充実に向けた小学校から高等学校までの地理教育一貫カリキュラム、さらには分野や教科を超えた融合的な学習を、柔軟に組み入れられるカリキュラムを作成しやすいような学習指導要領の実現に貢献したい。

日時 2026(令和8)年9月12日(土) 14:00～17:00

場所 九州大学 伊都キャンパス (福岡市西区元岡744)

参加費無料
一般参加可能です

オーガナイザー

井田 仁康 (日本学術会議連携会員／立正大学特任教授／筑波大学名誉教授)
村山 朝子 (日本学術会議連携会員／茨城大学名誉教授)
由井 義通 (日本学術会議連携会員／呉工業高等専門学校校長／広島大学名誉教授)
久保 純子 (日本学術会議連携会員／早稲田大学教育・総合科学学術院教授)
山野 博哉 (日本学術会議連携会員／東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教授)

総合司会

由井 義通 (日本学術会議連携会員／呉工業高等専門学校校長／広島大学名誉教授)

プログラム

14:00～14:10 報告1：趣旨と「見解」の概要

井田 仁康 (日本学術会議連携会員／立正大学特任教授／筑波大学名誉教授)

14:10～14:30 報告2：小学校段階における「世界との出会い」の日常化と体系化

村山 朝子 (日本学術会議連携会員／茨城大学名誉教授)

14:30～14:50 報告3：「世界の見方・考え方」を働かせる小学校社会科授業の体系化

中谷佳子・小磯友佑・山本修平・岩野敬 (千葉大学教育学部附属小学校)

14:50～15:10 報告4：ユネスコスクールにおけるESDと体験と探究そして地理の存在価値

永田 忠道 (広島大学大学院人間社会科学研究科教授／広島大学附属東雲小学校・附属東雲中学校校長)

15:10～15:30 報告5：地域研究の視点から探究活動を再考する―地誌学習とフィールドワークの意義―

森本 泉 (日本学術会議連携会員／明治学院大学国際学部教授)

15:30～15:50 報告6：メディアの視点をESDに―社会と小中高大学をつなぐ取り組みから―

山口 勝 (横浜国立大学総合学術高等研究院 客員教授)

15:50～16:00 【休憩】

16:00～16:10 コメント(指定討論者) 志村 喬 (上越教育大学理事・副学長)

16:10～17:00 総合討論



こちらのQRコードから発表
要旨をダウンロードできます

【問い合わせ先】(電子メールにてお問い合わせください) 由井義通 yyui@hiroshima-u.ac.jp